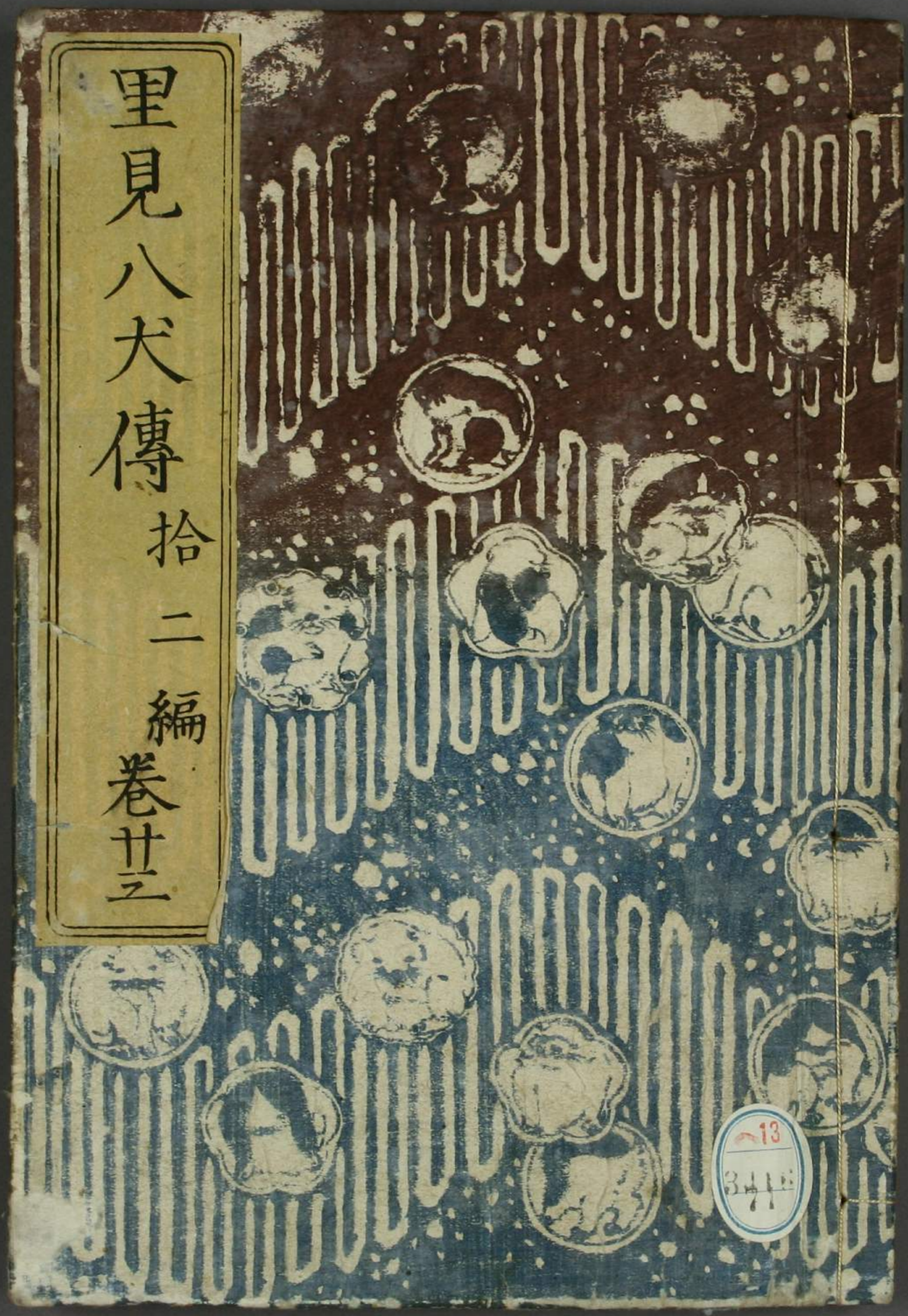




里見八犬傳 拾二編 卷廿三



拾二編五卷之角

木三

松野

勝善院

南總里見八大傳第九輯卷之二十三

東都 曲亭主人編次

第三百四回

苛子の海中とやまと保千金さききんを撈つかは

復説大江親兵衛まことくわいねえんべの舟覆ふねふくり。水底みづそこに喪なげれる金子かねと名刀ななを惜おぼめも甲斐あひなき。代四郎よしいを慰なぐさめて。甚おそろしく。像輒やうねに二ふた海うみに没しづり。いふくと思難おもひ。單扁舟ひとへに操あそり。岸きしへ寄りて存ありける程ほど。姑且なほと代四郎よしいの波濤なみを披ひらいて。忽然とと扁舟へんしゆの邊へに浮うかす。両ふた手てを捧たまはし。一箇ひとこの箱はこを舟ふねに撞つき。埋うめと投入いれり。これれは是別物これづものを失うせ。那その金かねは。親兵衛おんべの。欸うか。不堪たまら。楫こを。出いして。代四郎よしいが。推おし。せ。る。程ほど。代四郎よしいが。舢たぶ。り。を。搦なげ。り。と。舟ふね。に。乗のり。て。耳みみを。傾かむ。ち。敲たたか。鼻はなを。効あら。水みづと。出いて。一霎ひとし時とき呼よび。吸ひき。定さむ。腰こしに。跨またり。大小おほいの。刀やいばを。一ひと口くち親兵衛おんべの。透すと。與よる。是これ。亦また紛まだ。も。あ。ら。け。り。小月こつき形かたちを。見み。親兵衛おんべの。憶おもひ。雀さ雀さ躍ある。楫こを。

南總里見八大傳第九輯卷之二十三

文藝堂藏

引抗け跪して受戴せし腰帯不測の思義を感じて己左の袖と濡る刀見と拭ひは
代四郎の向ひて歎ひと舒る等倚伏の糾ふ纏の如く今創ぬ阿波の細法六松麻茶は戸河
増や今の拵は妙なる既千仞の水底に論て其首とも知るよりさるる。西國の寶貝と拵り
給ぞ。羞もあはれ二度まで咱們が帮助不仕れぬ。逆古今恭天皇の十四年秋七月敕詔
よて赤石の海なる奇真珠と拵採て命死ける阿波の蜚戸功長邑の男狭磯をも是れ優
あはれんやと感涙坐せ吐きまふ連り不嘆唱も程代四郎の身を拭ひも果に船の内脱捨
たる衣と袴も板よきて身装し然氣も親兵衛も答る等小可御史諸君子の意見不悖り
妻小三秘して死身小従ひ罪治まふ所為されども夙念違ふ有候瀬小連て死身の仇を
敷く思念の外幸ひも裏小死身の故も富山我宅眷副六松と女過さるあ
夫伏姫神の神恩徳誼開か萬分の一も復しませぬと思ひ候れ然何夏も是加さるべ

年い多ても細法い今も昔かたねと畢竟千仞の水底と探りて斬りか入金と小月形の名刀さ
てあふ當りい我もを那姫神の真助もむらや如く百個千個の男狭磯と這里も取とも
山豆人力もて倅し海流もむらと折るの所は誇り誠心と親兵衛も感嘆して今も
那毒茶中られる我伴當も夫役高工們もふるん心許り。卒先舟と還せしと代
四郎然と慮て身起し親兵衛代と楫を操る舊の船邊小漕寄も扁舟を繫
と住り親兵衛代四郎と俱伴の要金と那海賊の頭領の首級を我船小會容る然
那這と檢まる伴當夫役高工毎いし隨て死活と知む又御堂親兵衛が羅什
たる五六個の小嘯囉們も脚と折れ交へ膏と打脱して嘯苦む息絶しは饒りもと諸
殿耳小叫ぶ枯野の霜も鳴く虫も細る可くと親兵衛もいもかへ連く懐るは護身
囊も合も内も火玉の奇特ある。主共侶も海も渡りし小囊の言も濡るしと親兵
衛も着る衣も乾いて溼るる潮氣の餘波さるる。當下親兵衛も這靈玉の

護身囊額まのりあくるひんあけ推當おしあてち念ねんと即復さむらひ復また這囊こゝろもても仆おれる躬方みづかの母はは胸むねを漏もれ
 拵しらく權けん且かつ一ひと伴當ともひと夫役おとこ船公ふね當工あて們ら同音どうおん小忽こ地苦ぢくと叫こゝろびつつ伶りやう行ぎやうきき威い船ふね身み
 僥やうけくく共とも侶りよ不ふ反はん吐つ衝つと大おほ々々々々醜みにく困こ子こ濁にご酒さけ喫くべべ涯はたり吐つ盡じんと心こゝろ地ぢ清きよきき
 去さり甲か乙おつ通とほて我われ復またと親おや兵衛べゑをを代しろ四郎しやうをを又また仆おれるる艦く見み見み們らをを驚おど馬ばにに訝あや
 ずず見み其その甚しどどととくくああ蓋おほて有あ敷し系けい向むか難がた親おや兵衛べゑ然しかぞぞと微こ笑わらて有あ賊ぞく難がた箇ごと様うら
 と海賊うまづら們ら奸こゝろ計はかり陥おとられ首くびより一ひと千せん兩りやうの要もと金かねと一ひと個この老おきな賊ぞくが竊ひそ合あて扁へん舟ふね無なて逃にげ
 んとんはは親おや兵衛べゑが奸こゝろ推おしけり舟ふね覆ひる難がた義ぎの折お燒や雪ゆき代しろ四郎しやうがが來きて件けんの賊ぞくを討う
 捕とらるるその夏なつの尾おし毛け解とけ示しし又またのの其その首くび仆おれる盜ぬす見み們ら初はじめて我われ船ふね入いりしと楫この
 毆う伏ふするるああの餘あまるる幾いく名な狄てい雜ざ輩ばい搔か抓かて洋やうへ放はな下くだああもも若わ們ら他たを親おやととく
 代しろ四郎しやうああるる御ご京きやう水みづ中なで討う捕とらるる首くび級ぐわいを合あ合あてて皆みな愕おど然ぜんと驚おど馬ばに悔くかかるる
 陳ちんききやうやう小せう可か毎まい本ほん性せい愚ぐ心しん魚ぎよ曾そうて口くち腹はらを貪ねるる為ため御ご制せい止どすす不ふ可かとと死し地ぢ陥おとらるるを

乃知なり命いのち魂たま既すで絶たるる御ご武ぶ德とく憑たよよ海賊うまづら亡なびて這こ身み々々々々恙やきき甦よ生みがりる洪こう福ふく
 父母ちち倍ばいを御ご恩おん以後いごと慎しんむむのの饒にぎささををと陪ばい話わるる親おや兵衛べゑをを不ふとと我われ
 か折お小せう奇き巧こう謀ぼうり身み騙かた賊ぞく毎まい無なせせれて小せう心しん届とどきき若わ們ら行ぎやう心しんと五十ご步ふ
 歩ふの回まわりり倘たう姥おば雪ゆきの帮たすけ助すけるる我われも亦また大おほ洋やうの底そこ水みづ屑くずをを取とりし正ただ是こゝろ我われ兩りやう館くわんの天てん地ぢのの
 送おく恨うら素す奴やつ們ら痛いた癩か弱じやくりりかかも尚なほ死しするるを便べん宜いるる片かた隅ぐまより皆みな牽ひ起おことと結むす粗ことと構かま
 問とせよと公こう指さし揮なりり大おほ家け勇ゆうと立たて美みのの心こゝろ果はむむ松しょう擔たん附つけけ麻あ索さくとと小せう板いた合ありり群ぐん
 立た意い弱じやくりり俯ふすす小せう嘸ふ囉ら們らを引ひ起おこしし綁ば縛ばくせせ成な檣じやうをを敷し系けいけけのの开ひらかか中な小せう那な舟ふね經きやう紀き
 打う扮はんるる兩りやう個この小せう嘸ふ囉ら水みづ冤えん鬼おに柄えい杓しやく九く郎らう灘な渡わた破やぶ船ふね二ふた俱く兩りやう脚あしを折おれる起おこ居ゐるる隨ま意い
 るる氣き力りき衰おとろききけけ親おや兵衛べゑ隨ま即すなは伴とも當あて下くだ知して這こ兩りやう賊ぞくをを取とりし緊きんきき責せ問とせせてて採さい
 ぞ具ぐ招まつつ了しまるるを言ことととちち听きくく他た們らの火ひ家けの兩りやう個この頭あたま領りやう海かい龍りゆう王わう脩しゆ羅ら五ご郎らう今いま絶た友とも查しや勘かん

太の出処来歴陀々花酒の事伎倆の顛末這回大江親兵衛們が京師へ赴く船を載る金
 多かるを知らず奪略を欲せども親兵衛の武勇あり且同船の武士伴當們八九十名あり
 といへば他們が火家と對沖せり有徳計り易く金と母と引分んと段々旋る親
 兵衛が這港口の歌船を始り今純友查勘太の小嘍囉五六百名從て悄地陸地
 うち登りて箇様々の計畧を行ひ又海龍王脩羅五郎千餘名の小嘍囉を相俱く
 より那裏の船も存り豫計りしるるる番崎十一郎照文が伴當を多く領て奥郡へと赴く
 して開が後不眼の船より出てゆく者も亦尠くねば越の之便宜なるるる虚を棄て水寛
 鬼們的假經紀の計策を以て事十二分不倣はるる親兵衛裏と畫れて自他幾名の
 火家ゆへ海龍王へ討捕られて事の茲及びゆとち出と又陳きや但一那番崎と
 らし伴引かて開が路の埋伏と較も計り今純友が一親の造化の以て美知ま
 いといふ親兵衛散馬にて原來今日賊難に我上のをわきて亦番崎們の前路を存り開

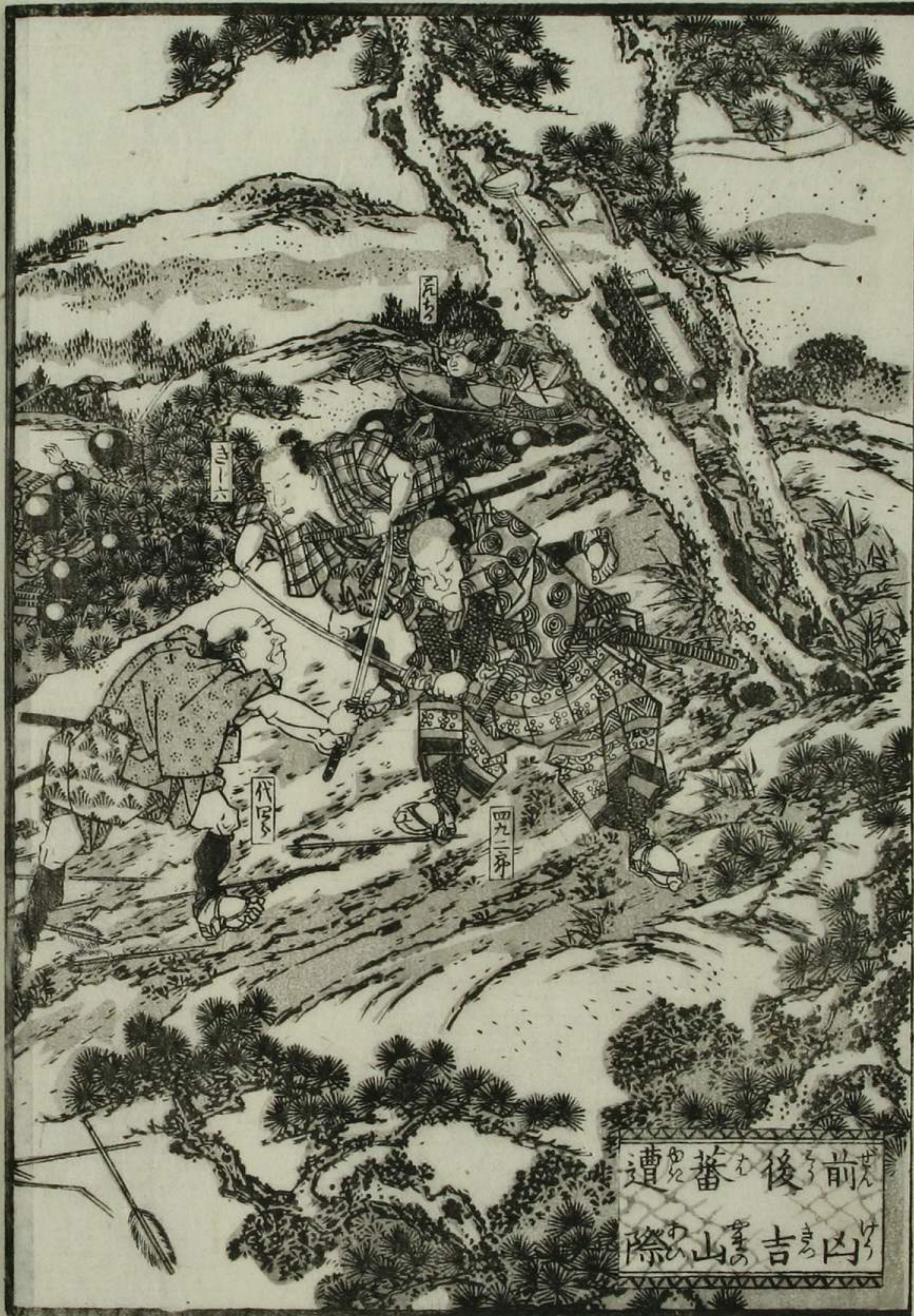
燒雪更知るる安危什麼とるる代四郎笑々膝を扱め然りとるる御宗和君
 告き思ひて身單走のかりかゝる和君亦那脩羅五郎ら首級のを留めり老賊と水
 中ぞ閉戦の最中之れ告る暇あまると時後れて六日の昔蒲十日の菊小似れども花を
 実もある話説へ柳御宗奥郡を城主の家臣と伴て番崎生を誘引する那設良四九二
 郎綾丑実ある人あるも他則海賊の頭領とせざる今純友查勘太が下老鋸較五
 鬼五郎と喚做る那一族の小頭領然れ寝兵打拵て相従さ四五名も開が火家小嘍囉
 るるの番崎生も我們の知るるる存れ哄詐られて俱もくと千餘町樹柢深き番山あり其
 頭の山路入り折跡より東原菅工們の内中路の案内を知るる忽地聲を鳴りて
 刀袂們奥郡へもとるる路錯るる招れ假四九二郎の五鬼五郎の省も其冷笑ひて
 他們が何をよく知るる我城内へ赴く此山路を捷徑を人々欺れあるるといふ番崎生も小可
 惑して敢疑の程引れども程不忽地前路の樹間より响馬とて一見暴雄們の親約五六

名敷皮も絨も身甲小鉾脛衣と弓脇披と箭を搭馳ひ或竹槍長鉤を引提て
 路を横遮りる内中一個の頭領の後小の名を摩て知ぬ尾尾則別人を今純友查勘太
 り身材叩く虎鬚を星做し眼を赫変り、蚤崎生を疾視て若們他御の乱走見既
 鈍くも我々が圈套入りと、曉得らる那里いふときや盤纏身皮と共侶の命も這里差
 差十萬億土走れねと暗け衆賊同音小鬨を為し、籠と敲いて笠則を聳と聳不似と
 勢ひ當るべうもわれは蚤崎生も小可も只得刀を引抜いて箭を破拂々々一霎時の敵と柱
 倚り、その折故意と後れる假四九二郎の五鬼五郎の隊の小嚙囉と相俱り永做と長
 刀を抜見りて、背より吐と嘯て敵と競ふ前後の賊徒の氣を吞れる、躬方の夥兵伴
 當們及那直塚紀二六三防に戦ふ擬勢、況飲食の與との跟て来れば夫役高工
 們的右往左往に逃迷ひて矢傷刀瘡那這と痛癢を肩ぬもろり、蚤崎生も小可も免
 か死必死の乱戦樹柱と盾を相柱えて透もあらず刺錯へんと思へ一歩も退くで力と勤る

覚期の折も復忽然と前後の茂林に鯨波大く護りて群立出来居る軍兵ある其軍
 装賊徒も似む但見る右より左より直鬼の武者三百名摠大将をか帯り楊檀花絨の鎧
 戦袍も龍頭の兜の緒を締二十四挿する鷲鳥羽の征箭前高の駒做と滋藤の弓と左の脇
 披と右の麻毛と打振る、金作の大刀の自平皮の尻鞆掛て聖柄の匕首と挿副大逞し
 桃花馬の雲珠鞍置くと、優りうち跨り白地も圈藤の家花彌添做す旗一梳山風吹靡
 走士卒と厲る勢ひ群る虎の峯を降りて羊と駈る異る馬前も立する勇士猛卒天
 地も响く同音尖鋭く若們大胆に敵の看賊叩本郡徘徊と白晝も前徑を做を兵士民の
 怒訴もゆる緝捕の為隣尾殿がら向せぬ天羅四面訓免るべく皆刃を伏せ跪て繩
 掛れと喚り呼聲共侶前後より、銃も透回り連放る征箭鏢炮も空發前空丸もこ
 りければ然も猛り草賊毎夫場四五名敷も仆され餘傷を蒙る敷る小道もあらず草
 賊是も勢ひ折けて乱れ立る癖を吐嗟とろり小辟易と蚤崎生と小可の身邊も敵も



六



遭	蕃	後	前
際	山	吉	凶

るり。係鉄。系共侶。近々寄隊。指招。是は他郷の旅客也。蛭崎照文。姥雲與保主僕。約莫五十名。の賊難。路考り。血戦。數刻。及び。者也。緝捕。の人々。の意。を。同士。撃。つ。と。喚。り。呼。り。突。然。と。找。と。出。り。敵。と。擇。む。逃。ん。と。あ。る。君。賊。と。當。る。儘。と。斫。付。せ。り。初。逃。る。伴。當。野。兵。高。士。夫。役。們。も。力。を。用。い。ん。招。れ。も。か。り。來。て。幫。助。さ。る。り。も。多。く。有。徳。一。程。の。賊。徒。の。頭。領。今。純。友。查。勘。太。の。眞。像。の。像。を。折。拭。し。矢。傷。銃。瘡。を。め。も。逃。る。賊。を。罵。將。と。兵。毎。蓬。今。爰。也。露。の。命。を。免。ず。と。百。年。千。載。の。も。生。死。死。な。り。と。聲。喚。咽。と。三尺。有。餘。の。血。刀。を。振。り。打。ぬ。奮。數。突。戰。何。脩。羅。の。暴。も。恁。や。あ。ん。三。惡。道。秀。る。賊。首。も。武。藝。勇。力。一。人。當。千。は。緝。捕。の。士。本。も。亦。も。遠。圍。り。ま。る。敢。近。つ。兵。を。り。と。蛭。崎。生。衛。と。寄。せ。て。自。打。の。も。と。投。と。せ。り。查。勘。太。透。き。刃。を。捨。て。四。の。目。目。り。被。組。る。查。勘。太。替。力。の。勝。れ。も。數。人。所。の。痛。疾。亦。如。意。を。推。し。推。れ。桃。む。程。那。四。九。二。郎。の。五。鬼。五。郎。の。返。合。り。今。純。友。を。幫。助。て。蛭。崎。生。と。刺。し。既。走。る。近。つ。小。可。を。遮。り。止。め。て。五。鬼。と。

刃と交り。一上一下と戦ふ。當下那方。查勘太の。瘡。肩。不。れ。も。腕。剛。に。究。竟。の。も。燦。煉。る。は。れ。遂。に。蛭。崎。生。と。組。伏。せ。腰。を。短。刀。抜。出。し。首。を。搦。ん。と。あ。る。折。紀。二。六。迫。目。を。飛。ぶ。像。く。走。る。來。り。背。より。と。查。勘。太。の。頭。髪。を。抗。て。彎。付。せ。蛭。崎。生。と。反。復。し。主。僕。兩。個。で。辛。く。あ。て。厭。ま。て。索。と。掛。け。り。然。し。這。方。を。五。鬼。五。郎。の。今。面。前。に。查。勘。太。が。捕。捕。を。え。て。魂。忽。地。天。外。に。飛。び。失。け。腕。乱。れ。受。大。刀。の。も。り。り。小。可。を。踏。入。り。肩。大。托。地。と。斫。付。し。起。り。立。登。り。蒐。て。刀。の。緒。を。と。結。ち。折。り。躬。方。の。野。兵。を。兩。個。返。來。て。索。と。合。り。牽。立。け。り。あ。の。餘。の。草。賊。五。六。十。名。大。槩。に。隣。尾。殿。の。勇。士。猛。卒。を。驅。逼。り。或。は。數。を。捕。れ。或。は。俘。囚。さ。る。も。捕。捉。さ。る。も。果。て。大。將。隣。尾。伊。近。主。の。隊。兵。を。取。合。し。組。る。結。縷。草。地。に。登。見。を。建。せ。て。首。級。実。檢。と。あ。る。折。蛭。崎。生。と。小。可。の。捕。捕。を。賊。徒。の。頭。領。今。純。友。查。勘。太。と。鋸。數。五。鬼。五。郎。の。野。兵。牽。一。伴。當。と。稱。て。身。邊。に。赴。て。左。右。就。て。本。貫。姓。名。來。意。厄。難。の。真。の。趣。と。想。て。兩。個。の。生。物。を。解。き。隣。尾。殿。對。面。あり。と。戰。場。を。

慰め功を著して宣ふや。和殿們里見氏の家臣を我れ舊縁も小似る。然る今料も急難に
 極ひて草賊送るる入りの過世ありてを後して解示さる。近曾西海山陽北海
 賊毎遠く東海小免れ来て這頭の諸浦船と歌め時々陸より登りて旅客と居る良
 ち入りの害と做す。其の害も介るる四国の琉賊なる。今純友查勘太と喚做す。下れ小嘍囉
 五六十名と從て五六日已前より這蕃山脚居る。今朝も土民の密訴あり是れ先向
 謀見と遣てその虚实と探せ。果して違ざれば捕捕せ。與我れ隊兵三百名
 從て悄中城と出で先這蕃山を捕圍せ。山路うち入り涉獵り。各難義の折りて
 只の一挙小草賊の根と断り。各の賊徒を相柱えて時を待たしめ。賞をせしむ。
 不め。且我歌船を事の仔細と海賊們が伎倆の顛末と向勘て。然而隊兵小吟附て生拘
 草賊小拷問の竹台を加えせられ。今純友の呵責小撓も始り。首伏せり。かども五鬼五郎
 們以下の小嘍囉の苦痛の堪む支送も。招了及び。他們が出处姓名縛縛も。其の

折正可。知れ今純友查勘太。這一夥の頭領も。又鋸較五鬼五郎。并小頭領。草賊
 們的の餘海龍王。脩羅五郎の事。及那一夥の小頭領。水鬼鬼柄杓。九郎。灘渡破船。二と
 喚做す。又海癩龜。正覚坊。橋毛。船沼。受太郎。鉞。千本。河豚。六寄。鯨。土左衛門。潮冠。品
 九郎。と名ある。下れ草賊も。折捕捕られ。但小判。鮫。四郎。棘。鬘。骨。電。八坂。田。沙。智。七
 龍宮。鶏。魚。太郎。と喚做する。四個の草賊。今純友が隊下也。名ある小頭領も。逃や亡け。あ
 らむといへ。涉獵れ。屍骸。る。只の六名。も。這回。他們が伎倆の顛末。當家。を。見
 船も載る。金子。と奪略。んと欲す。同船の從者。も。更。假。藩。士。と。造。り。出。し。我。當。黒。を。大
 半引分け。陸も。今純友。從。小頭領。小嘍囉。甲。乙。俱。五六十名。這里。埋。休。と。結果。けん。船。る
 る。海龍王。們。が。沈。花。の。計。策。も。て。救。死。と。豫。准。備。の。吉。事。も。都。て。招。了。せ。れ。小。可。可。れ。あ
 敬。馬。憂。して。余。れ。身。の上。最。始。一。も。危。急。小。可。可。船。不。還。り。て。身。の。安。否。や。不。見。る。へ。く
 這。方。の。も。報。知。せ。ん。と。謀。れ。發。崎。生。沈。吟。と。大江。大。智。大。勇。之。縱。那。海。賊。們。が。不。謀

まゝ酒飯の為に陥れて命を喪ぐも、渡莫這方の賊難く、報知せる。小心の與、宜か
 らむ。とて隣尾殿を、つてて大江に甚麻多のぞと、回れて番崎生、徳々と、身身を備、稀る勇
 武智略功多の事、顛末に解、稟せ、隣尾殿、駭然と、貌より、更の嘆賞と、亦奇、了後生、を心
 許る。各先、退、を、我、漏、たる、草賊、を、海、涉、獵、り、各、捕、捕、て、馬、頭、の、對、面、見、疾、く、い、ち、か
 ら、の、と、番、崎、生、左、右、を、立、止、御、意、辱、く、い、ち、か、在、下、山、不、測、の、御、救、助、を、必、死、を、免、れ、い、ち、か、捕、漏、さ、さ
 たる、草、賊、を、捨、て、退、る、義、あ、ら、ん、大江、の、代、四、郎、と、一、個、遣、事、足、る、那、里、異、變、あり、とも、既、ふ
 時、後、れ、た、身、勢、も、甲、斐、を、衣、一、有、置、置、る、う、め、と、辞、さ、く、只、管、義、勇、い、隣、尾、殿、の、威、
 を、恐、思、れ、る、左、右、も、隨、意、を、上、勿、論、る、不、々、々、殊、雪、を、ら、馬、頭、退、り、その、大江、の、後、生、の、
 我、の、意、を、算、仍、上、か、捕、捉、果、る、日、暮、る、とも、必、死、を、對、面、見、疾、く、い、ち、か、懇、切、の、指、揮、小、
 可、再、説、及、び、身、の、暇、も、多、と、走、り、の、の、と、報、詞、の、長、潮、の、清、心、不、委、ま、る、水、と、陸、地、の、災、
 祥、安、危、の、親、兵、衛、耳、を、敬、せ、或、の、驚、は、或、喜、び、听、果、て、憶、さ、る、太、息、と、吻、額、と、相、て、一、方、を、

けふ禍鬼、這里、中、阿、叟、の、幫助、あり、又、陸、地、中、伊、近、主、の、緝、捕、の、隊、配、合、期、七、度、賊、一、時、誅、伏、の、
 飲、み、就、て、思、ふ、是、も、亦、我、姫、神、の、引、接、冥、助、の、神、力、あり、その、人、を、得、て、危、を、去、り、安、に、至、り、け、其、大、功、を、
 論、へ、し、則、ち、番、山、は、賊、の、小、頭、領、五、鬼、五、郎、と、稱、捕、り、後、大、洋、波、濤、を、潛、り、て、海、龍、王、を、討、
 捕、て、咱、們、を、極、て、千、尋、の、底、を、千、金、と、名、力、を、輒、も、撈、り、得、る、阿、叟、と、と、第一、と、ま、る、次、の、不、知、
 案、内、の、山、路、小、衆、賊、の、不、意、を、敷、り、て、亂、前、身、を、傷、れ、る、那、草、賊、の、頭、領、と、せ、え、今、絶、友、を、捕、
 捕、て、武、勇、と、這、地、の、城、主、不、知、れ、番、崎、生、の、優、者、を、一、只、行、心、有、て、功、を、咱、們、が、不、覺、面、伏、今、
 大、と、諦、せ、我、慢、心、八、大、士、の、中、途、早、く、兩、館、不、見、參、差、富、山、老、侯、の、危、殆、窮、を、拯、け、り、上、總、を、
 館、山、中、反、賊、甚、田、素、藤、と、一、度、を、二、度、生、拘、と、君、の、死、與、不、盡、毒、を、其、又、拂、ひ、又、武、藏、の、忍、
 岡、の、政、木、大、全、と、相、伴、し、賢、と、薦、る、忠、信、を、虚、く、せ、る、西、國、河、原、は、石、龜、屋、次、圖、大、門、の、厄、を、解、
 たり、大、田、大、川、の、與、中、其、舊、交、代、り、る、又、下、總、を、左、右、河、原、中、大、庵、主、の、禍、鬼、を、徒、不、敷、走、と、
 義、烈、院、殿、の、御、送、骨、を、敵、の、為、不、喪、さ、る、約、莫、這、大、功、我、及、者、と、の、情、地、み、か、り、肩、

既天狗の漏るる人賢とる不肖とる。故に孔聖人も耕作の
 老圃不如といふ。然る虎狼の猛も水没て細鱗も及ぶ。又白龍の魚服たる
 余且の網を免れず。此古語の言の如く。機は益と已と知。敵を知る小心の倒るる
 困る仁が今日の不覚の如く。我義兄弟都て七人孝義忠信世に稀。年来流浪の艱苦を
 喫て仇を敷く悪と懲。或は又貪婪する伯母仕て孝順愛。亡父の志を義嗣て
 信乃を。或は毒悪する東人の與。怨を復す。冤家の為に誣られて罪を及罪人
 做すも志と改む。或は亦友の與。老歎故怪を頭と。那人の親の心を慰め。或は又奸臣
 抑留せられて。防は亦果茶牛と推駐めて。聚令千百の老幼男女。一個も傷らるる。刻
 我親兵衛が時運に乗。名君武徳の驥尾に附る。軍功の類。孰も学び易く。思
 とも思ひ。我の賢達と懲。されける。姫神の神護。我と心して。今日までも。井蛙の淺見。自
 添放言人も。るる。奉止の。さるる。心裏恥。我徳と争。何せ。曩も水路。赴く。折大飼と

小父大田が教諭を。後思合して。後悔胎を。噬る。姫神の。饒さ。君子の。必。獨を。慎
 む。古語を。胆。銘。て。さ。る。る。と。當。と。合。て。天。を。ち。仰。ぐ。怜。悧。け。れ。も。童。子。の。情。態
 然。九。歳。の。性。美。を。代。四。郎。感。且。慰。め。然。る。不。悞。ひ。七。子。孟。氏。の。語。君。子。と。欺。く。陷。る。づ
 ら。は。の。い。へ。身。の。上。の。似。り。よ。く。そ。の。方。と。て。ま。れ。仁。人。君。子。の。い。ふ。ま。て。欺。れ。る。と。い。ふ。そ。の。欺。を。信。う
 と。漫。に。陷。ら。れ。衆。賊。と。矢。場。不。敵。に。仆。て。海。龍。王。を。趕。林。の。り。開。行。心。の。念。を。多。れ。も。身。中。て
 みる。非。と。七。行。心。の。飾。る。ま。は。老。實。心。の。浮。薄。人。の。鍼。砭。之。徳。の。孔子。の。語。道。不。以。て。鳥。計。す。く。思。ひ
 れ。語。の。い。ふ。も。君。子。の。過。の。日。月。の。蝕。の。如。し。過。り。た。い。人。を。仰。ぐ。改。る。と。も。人。を。仰。ぐ。と。い。ひ。の。身。の
 懺。悔。向。く。有。る。謙。遜。な。れ。も。其。頭。の。今。の。急。務。の。小。可。蕃。山。の。復。り。と。蚤。崎。生。の。隣
 尾。殿。の。這。里。の。盜。難。箇。様。々。と。身。身。早。對。治。せ。れ。事。の。首。尾。と。報。知。る。隣。尾。殿。對
 面。の。折。詞。を。言。く。費。を。便。り。宜。く。い。え。と。親。兵。衛。點。頭。と。その。後。便利。の。計。を。も。老人。を
 幾。番。脚。疲。ら。せ。ん。心。を。伴。當。と。そ。遣。去。け。れ。と。辭。ふ。代。四。郎。の。金。否。別。人。で。い。不。便。之。小。可。走。一

走れて来て入准備まで... 渡りて蕃山へいそげり... 登り眺望見お出して... 既景既没まき... 上法遠くま... 頭お出迎る程... 立一馬上優路次... 船の案内も俱せ... 歩を早親兵衛... 卒左右別れて... 告と見参を登時...

們之勇士の武勇... 草賊四名小判... 捕の網を免れ... 児あり我隊の... 尚淹留を敷... 自療を施し... 死するも... 殿の船の拵... 八代傳九郎卷之三

多く持れ里見殿の果報を美次へ傳へし。懇態なる島嶼の舊話に似る。我曾祖渥
 美の郡領隣尾大夫信近。南朝の忠臣を將軍の宮宗尊親王遠江守井の城御坐
 時々の死躬方へけ。新田里見の人々。然し舊交を承る。南西北朝廷御和親に
 後已とせざる。足利家小隨従と本領安堵の今に至り。然れ。今日各料ら。對面有數
 昔と愧れて空谷足音の思ひあり。我各感状を餽ら。彼他家の臣子。然る賞書を取
 まり。せられ。舊好あれ。饒れ。せ。後の證據ある。親兵衛の後方。代四郎
 懐を找て。御談忝く。い。餘人の知。小可い。犬山道。即。舊僕。大江親兵衛。姪母
 兼。小。因。い。這由縁。思ひ。里見殿。召。侍。品。數。推。辭。を。照。文。傍
 より。袂。被。て。制。も。代。四。郎。の。尚。憚。り。思。ひ。隨。ひ。吐。く。程。伊。近。勃。然。と。面。色。変。り。て。い。と
 け。い。ら。ぎ。と。思。ひ。く。ら。ち。領。を。適。宜。と。直。言。さ。る。世。忠。臣。者。誰。も。憐。れ。

開と知る。あ。ね。も。武功。と。只。顧。愛。の。故。実。思。ひ。の。足。さ。る。れ。各。あ。る。掛。け。因。て。あ。の
 美。の。閣。に。え。何。れ。所。要。あ。る。有。司。命。に。亟。お。辨。て。切。て。報。い。せ。ま。ほ。し。け。望。し。ら。る。る
 也。と。問。れ。て。親。兵。衛。然。し。安。房。あ。る。義。兄。弟。們。の。今。日。の。一。美。を。告。知。せ。る。後。の。便。宜。の。い
 へ。も。這。頭。央。の。海。艦。一。艘。の。威。徳。の。よ。う。船。を。速。く。央。の。安。房。へ。遣。い。つ。む。と
 請。ふ。伊。近。王。の。御。座。を。易。に。か。有。司。命。に。甲。夜。の。回。我。の。船。を。遣。え。快。消。息。を。調。へ
 よ。と。心。を。天。を。う。ち。仰。ぎ。て。日。景。の。既。に。没。果。ち。送。憾。し。思。ひ。今。い。も。是。ま。還。さ。る。又。船。城
 寄。せ。訪。れ。ん。と。祈。る。の。と。別。を。示。し。て。照。文。と。代。四。郎。も。叮。寧。る。詞。を。被。て。慰。め。ら。る。その。間。お
 親。兵。衛。の。水。際。に。伴。當。を。招。け。大。家。あ。る。ゆ。て。牽。居。さ。る。生。拘。の。海。賊。柄。枚。九。郎。破。船。二
 首。を。甲。乙。都。て。七。八。個。の。索。命。縮。て。牽。り。寄。ま。れ。隣。尾。家。の。兵。頭。錦。織。機。馬。殿。兵。を。從
 へ。隊。より。出。る。親。兵。衛。對。面。と。武。功。と。答。言。る。を。當。下。親。兵。衛。那。捕。捉。の。速。さ。り。快。い。を
 舒。て。海。龍。王。脩。羅。五。郎。の。首。級。を。命。出。て。生。拘。と。共。侶。の。卒。と。機。馬。の。解。せ。機。馬。の。殿。兵。を

受捕して。馳て後陣に退く程。主判官伊辺馬より。跨り隊兵を招て。歸城の路次をいそがせける。徳て又錦織が同僚より。田作四郎と喚ばせ兵頭。雑兵五六十名。照文が伴當。親兵。夫役。高工。毎の痲を負ふ。早て後陣より出て來。親兵衛並照文。君命と傳へ。雜兵。吩附て。金瘡兒を船に載果て。然而親兵衛。們再會と契り。又隊の兵を領て。奥郡の城へ退りけり。介程。親兵衛。照文。代四郎。と共侶。恙なき。親兵衛。自他の伴當。とて。立下。船を還り。一日。腰と放き。茶釜。とち啓く。則是別府。伏姫。傳授の神藥。隨即是と一撮。傳て。臥る。金瘡兒の瘡口。一個も送る。師。撰て。布を痲。を林。定と締。びて。更。又。件の。茶。を。水。攪。建。て。飲。さ。ふ。神。茶。の。即。效。先。度。異。る。金。瘡。兒。の。推。並。て。疾。痛。立。地。退。り。心。地。清。中。ふ。り。よ。け。り。の。折。日。の。暮。春。て。船。の。回。母。燈。燭。を。點。き。程。親。兵。衛。照。文。と。代。四。郎。談。さ。る。阿。叟。の。言。我。船。願。て。同。行。の。本。意。を。遂。へ。素。是。忠。義。の。與。え。る。義。を。願。い。な。す。と。次。心。他。郷。へ。走。り。去。り。外。口。め。る。い。わ。べ。と。然。る。と。今。日。料。を。水。陸。二。所。の。武。功。あり。た。の。を。

我小父と義我兄弟。大田大山。報知して。這功を。那罪。僧人と。乞。稟。さ。有。司。後。か。の。愆。と。議。さ。る。と。恩。免。疑。ひ。さ。る。と。思。ふ。と。隣。尾。殿。海。艦。を。借。り。疾。消。息。と。書。寫。を。件。の。船。駕。ら。ん。と。解。れ。て。代。四。郎。が。欽。び。し。照。文。の。議。と。諾。り。て。然。る。咱。們。の。せ。ん。と。俱。下。燈。下。の。筆。を。把。く。多。も。准。備。整。ひ。親。兵。衛。又。照。文。向。ひ。て。這。使。介。和。殿。の。若。黨。紀。二。六。を。借。り。又。他。の。御。京。和。殿。と。俱。今。純。友。查。勘。太。擲。捕。さ。事。由。我。消。息。不。戴。其。賞。さ。る。且。自。餘。の。大。士。們。這。方。の。を。向。れ。折。答。詳。る。者。他。が。外。誰。う。ん。の。義。を。兼。引。多。し。と。請。れ。て。照。文。異。議。も。開。紀。二。六。が。幸。多。他。れ。と。の。使。介。相。志。か。下。と。思。ひ。和。殿。の。隨。意。せ。し。と。安。合。て。馳。て。紀。二。六。を。召。て。徳。々。と。吟。附。け。紀。二。六。然。氣。色。る。小。可。這。回。の。死。伴。不。達。さ。る。今。中。途。か。本。國。へ。返。さ。れ。ん。本。意。不。達。既。今。日。の。賊。難。思。へ。前。路。も。心。許。る。い。そ。ま。の。死。使。を。餘。介。仰。付。さ。る。小。可。那。國。志。也。死。伴。を。願。い。け。と。推。辭。ひ。照。文。を。開。き。最。了。了。箇。之。汝。伴。不。達。も。大。江。姥。雪。共。侶。親。兵。衛。當。り。

く領て。自ら旅るれ事虧け。何もの危死のあえや。おの美の我心ひらりて。汝の課をる思ひ大江に
 擇れ。此の上るる百目るる。と諭共。又親兵衛も云々と慰めて。照文と兵衛。書翰と渡與。口
 状を陳示。心利す奴隷と俱して。今宵發船とせよか。とらる。立れ。紀三六。只得書翰と受
 合きて。兩個の奴隷と共侶。準備と別船と。程の降尾の有司の下知。安房へ赴く
 海艦一艘。那里の浦より。漕りて来り。係と親兵衛。報さけ。件の船。船宰領の雑色。兩
 個と隷。究竟の高工柁師七八個あり。登時親兵衛。照文と俱し。船頭。来り。件の
 中人を勞へ。其高工柁師。皆の安房へ赴て。目今。七順風。れ。暁方。風易りや
 せ。とせ。催促。小程。直塚紀三六。照文。親兵衛。代四郎。以下。の親兵衛。當も。遠く
 別を告て。兩個の奴隷。従。件の船。乘得。高工。船。帆を揚て。安房。投て。兄。與。震
 別路。越。小。香。る。係。而。次。の。暁。方。風。猛。可。吹。易。り。て。西。赴。小。官。と。里。見。の。船。公。管。同。工
 毎。馬。り。船。を。出。さ。す。干。餘。個。の。金。瘡。兒。の。繞。一。夜。小。瘡。口。愈。く。立。掙。糸。障。り。る。け。れ。は。

親兵衛。伴。當。管。同。工。夫。役。們。一。個。も。缺。る。者。あ。ら。ぬ。神。某。の。奇。效。勇。士。の。武。德。憑。
 潮。路。の。蒼。海。原。と。風。小。儘。く。走。る。往。方。い。る。月。も。遙。き。
 第百二十五回 管領郎。小。福。鬼。親。兵。衛。と。抑。む。

却。説。直。塚。紀。三。六。們。の。安。房。へ。か。り。初。央。船。の。西。三。日。の。程。へ。平。群。の。洲。崎。小。来。り。け。れ。則。ち。の
 浦。船。の。歌。り。て。奥。郡。より。隸。ら。れる。船。宰。領。の。雑。色。と。船。残。し。て。を。俵。か。り。去。る。と。を。饒。三
 老。然。而。紀。三。六。も。兩。個。の。奴。隷。と。伴。て。瀧。田。の。城。へ。り。来。り。七。大。士。們。の。來。意。を。告。て。親。兵。衛。と
 照。文。の。書。翰。を。合。ひ。て。渡。與。し。け。れ。小。文。吾。莊。久。信。乃。毛。野。道。節。現。八。大。角。も。初。評。り。中。の
 驚。後。の。相。款。び。て。俱。し。の。書。と。用。は。る。又。紀。三。六。を。喚。よ。き。其。事。の。顛。末。を。猶。詳。し。う。ち。听
 く。代。四。郎。が。這。回。の。武。功。実。小。意。外。の。掙。は。る。れ。い。の。欽。び。ま。き。感。で。一。霎。時。も。浴。志。奴。隷。を

先音音と妙真を招はせ給へ程の照文の宿所へ紀二六をか遣せ共
 侶も追遠く出ておたけり然ハ八犬の内中莊介の養崎の舊族へおとて照文の宅着を
 敢忘と多く出迎へて向ふお其介の紀二六と俱那那地の椿事と生て蕃山の賊難箇様々
 と照文が武功紀二六が忠戦都て親兵衛が消息おいかうたる趣を有る隨小解示未お折
 主助敷として今絶友と生物のる紀二六お言漏るべもぬを照文の妻を聴て放馬を亦
 下る親もあり庇中寄る留守の安否を訪へてうち連立て来おければ莊介夢ておた
 折之我の對面おたけれも馳て坐席の請迎へて先老侯の安否を諸より然而親兵衛が注進の
 事の趣は色々あり其お示してその消息を讀り尚懐と挫撈て思且帝の間より照文
 が他們小寄せ書翰と出して遞與せも目萌三思ひけるん這言と那書を見て奇也
 奇也と感嘆を登時莊介聲と低めかる度と這處で談まるを礼れも言公似て公

多の秘事小の稟試のむ異貌雪代四郎疎忽の便船のふも越度をも老侯の御
 仁慈也及て他が面おたけり他們のまに知れ今番親兵衛が消息代四郎が請をも船の
 附る術はいたし這大功も償いおたけり欲するの支宜計しておたけり目今所れ消
 息在り這願言の今より要るお似れも代四郎が那大功を稟上おたけり各各任も
 悄地おたけり憑然日萌三共侶の點頭て開の養崎の書翰の具載おたけり
 此れと答馳て主人の妻と紀二六お告別と君所へおたけり信而大川莊介の紀二六を這里お留
 めて我が伴當の宿所から来おたけり妙真音音の六犬まら譚じら莊介のから来ぬを
 程の既めて代四郎が那水陸の一大奇功及照文主僕と親兵衛が當日の掙は箇様々と听ふ危く
 又安心有敷お慰められ憶を時を移しおたけり莊介の邊へお照文許かて来て妙真音音目對
 面し自餘の犬まら向いて料も那里まで目萌三が来ぬ逢て面談する事の趣は色々
 と解し大家いづく相飲して開へおたけり造化人然御沙汰のやまを

竹合別話及びる然も勇士の固居の詞敵ゆるりも音音宿所不遠て夷軍節件の
 首尾告知せんと身起妙真も共侶と末めと告別て辭して宿所退り介程七六
 去親兵衛代四郎照文主僕の噂を多秋の目傾く覺ゆける語次小文吾の宿所
 幸あて幸あて人か人知及がたを儒者の名つけて天の自然の事とて
 桐石龜屋次國太卿の如武藝或角能白打酒法何れも疎離るるも
 左右川橋の上も憶も敵の鎧砲の敷を俱深淵の淵に落ちるるも
 我猶子親兵衛の文武の才幹膂力も那毎勝れも酒法も知れ那海賊の頭領と
 羅五郎征伏せられて底の水層も多り其身不思議波上の浮き遂に溺れ且
 幫助あけるも機自然妙策也。酒天授の福も多り現公亦るる大江が這回
 日屬の武藝言力もかろ肩て宇宙敵多しと思ひ誇り。徳も今と知り
 折大田大川の教諭格言身も深胆小銘も亦是人の及ぬ所多しよる非と悔で改

不むと云れ大角膝と杖也然古の聖人とも行心と云るるも故孔子も亦
 れ人これを告といふ又那亞聖人の顔回過をゆき其も徳のあり又過て改
 ありの世人も其の非を飾で改るる稀も大江が賢才千萬人小捷れと知
 老と只頼小稱讚を莊介も野道節も俱小領て是不就ても孝嗣次國太卿
 為命憐むべくと不娯て嗟嘆不堪のけの浩処小湊目東峰萌三が情地小莊
 介小報る使价来ふけれ大士們相欬びて聚會て軀てその書を見る小
 館のほえ上て見上と伺ひなり小三士の武功を譽言せぬて代四郎が
 吾異小理の今もその美をのぞく親兵衛も十二郎も然と知れ這回大功
 那罪と償を請るるべ介も亦幸ひもその美を別紙小載これ安房殿の
 去那里の下知依る死の美の小文吾と道節と紀三とを相俱て明日夙
 とも書下我も亦使をり安房殿談考旨ありの美の目小るる秘上先大士

備をさせよと仰の趣かゝる如し。因て御高をせられ大江注進別紙と共二通を返す。別紙の披露まづ是老館の旨を秘す。あられ七犬弥心ちわで。今創老侯の慈恩佛菩薩の勝りあり。実の如く稱て情なき。有徳一程お庄介の遠く美書どめあり。件を使を還し更一個の奴隷とて紀二六を召よきて。明日夙稲村へ俱に死事の趣と洲崎の歌ゆいとせえ。奥郡の央船と今宵稲村へ程近港口程と置て館の元下知ある折便り。利多為をれ。言送も解示せ。紀二六を果てて洲崎へ赴けり。有徳折の妙真音立目心か君所の沙汰を什麼と思へ落つ。さびかたれ。大士們事慈と老侯の慈恩至妙の便宜と生る。軟の両個の老女の感涙坐お枝む。覚左おも右も幸言君の恩恵。俯て思仰は高は清澄山も。多めを稱。徳而次の日曉方道節と小文吾の出仕の衣裳と整。紀二六を俱。伴當と稲村の城へ赴く。紀二六を宿望あり。更京師へ赴け。照文們と安危と共せま。ほしを請ひ。道節も小文吾も忠心と感。とて絶の道程を

このひめをたす。ころのひめはあり。参上。出仕の両家老辰相清澄。面謁と。奇子崎の林泊より大江親兵衛。藤崎照文が注進の事の趣。並を使とて。かゝる多め。照文の伴當。直塚紀二六が情願を漏さ。具の訴て。その書と呈。聞て。けれ辰相清澄。俱に聞て。三士の武功高運。只管の感と。己まを。是より先。義成主。今朝。由。龍田の老侯より。近習小湊目と。昨日。大士。許京。老。那注進の。受。不。就。て。這方。斟酌の計。いる。宜く。下。知。ある。と。内。意。と。示。ある。ひ。か。その。と。あり。と。あり。と。今。又。最。も。詳。る。注。進。の。書。と。大。士。の。訴。の。駭。嘆。と。是。の。姥。雪。代。四。郎。水。陸。兩。所。の。一。大。奇。功。の。思。ふ。倍。る。擗。た。と。感。と。大。か。る。と。辰。相。清。澄。の。件。の。事。の。趣。を。義。成。主。に。告。げ。て。その。旨。と。兼。り。隨。即。道。節。小。文。吾。の。仰。の。下。り。と。傳。へ。今。春。親。兵。衛。十。一。郎。が。注。進。の。事。を。知。り。召。取。往。る。日。三。河。の。奇。子。崎。及。其。番。山。を。賊。難。の。折。他。們。並。の。姥。雪。代。四。郎。が。武功。の。比。類。る。と。開。け。必。歸。國。の。後。賞。禄。宜。く。御。沙。汰。を。え。又。十。一。郎。が。伴。當。直。塚。紀。二。六。を。王。と。扶。け。賊。徒。の。頭。領。今。純。友。查。勘。太。と。生。拘。り。る。是。開。も。具。の。聞。食。を。開。む。

異日十一郎が宜く賞まはる者之且紀二六が情願の事。素是忠義の與るれも御要の美あり。進退他が隨意まへ。又奥郡より隸される。船宰領の事城主の下知依るるも。中央船の御沙汰及れ道節小文吾相計ひて賞錢を取せがへ。その見錢の有司談して。數のいづ受とへ。その御前召されて仰渡さるれば。事目今の急務なれば。仰と傳ふ所。件如し。とて叮寧示され。是より道節小文吾の俱言兼を京へ退。有司の徳を。談する方僅下知あり。有司們異議る。財庫より件の錢を出さ。道節小文吾指し。且紀二六が路費を。各賜ふ。那若黨取ね。その金も共道節小文吾の遞與。二六が。這有司們が職室隣。一室退。親兵衛と照文へ與。報翰と隣尾判官の兵頭。錦織機馬遣。謝書一通を書寫。然而直塚紀二六を召登。仰の趣と解。路費の金子と大江登崎。簡一通を遞與。紀二六が受戴。過分と思ひ。造化。小可今番も特更。去向。

既の東人の宅春告別。罷り。この二つの奴隸。伴で進退自由。先河を。赴。願。二天士領。亦和郎の隨意。咱們的港口。赴。船宰領。對面。卒。躬。身。起。西。個。の。伴。の。奴隸。錢。を。馳。紀。二。六。を。件。の。港口。赴。其。頭。守。屋。の。奥。郡。上。隸。され。兩。個。の。船。宰。領。を。召。登。水。路。の。所。役。を。勞。且。當。館。の。下。知。永。樂。錢。若。干。を。賜。宣。示。則。兩。個。の。船。宰。領。の。青。岐。各。五。貫。文。及。船。公。等。五。名。各。三。貫。文。共。計。五。貫。文。を。倉。給。申。上。取。去。船。宰。領。の。合。意。額。を。御。恩。と。拜。奉。歎。涙。の。登。時。又。道。節。小。文。吾。の。隣。尾。の。兵。頭。錦。織。機。馬。與。謝。書。一。通。を。船。宰。領。の。遞。與。御。向。大。江。親。兵。衛。登。崎。十。一。郎。們。の。地。を。賊。難。の。折。隣。尾。殿。の。武。德。救。厄。の。援。助。も。福。及。て。福。も。當。館。聞。食。て。泰。平。今。も。舊。交。の。不。測。不。慮。か。り。感。思。召。況。我。母。歎。知。る。因。て。錦。織。生。の。謝。書。一。通。を。寄。り。欲。意。を。傳。ね。か。又。直。塚。

紀三六も亦推返し西へ赴きて主の伴の連を欲し因て亦復便船を三河まで入と願ひのり
 二つ載らるべしとの船宰領們も亦聴て仰あるは在処へ罷る今日七の究竟の風を剛
 才高工們が咄れぬは船と申す便宜の身の暇とあるべしと答て船公と高工毎も西へ個召
 上りて這方祢們が辛苦銭は是賜と指し示せ大家欽び拜謝して銭を受合て退る程に紀
 二六も道節小文吾も欽びと別告を告て船宰領們と共侶の船を乗るは余程大
 山道節大田小文吾の伴當とて港口より又稲村の城まで東荒川両家老の仰に従ひ
 なりて相計ひる件の趣箇様々と申上て退るとある程に義成王の命にて召よせて對
 面より代四郎が大功親兵衛並照文の高運の事の顛末と為具お聴んと面談の時程
 了る二大士の夜に主僕俱に當城内に留られて次の日瀧田へかへり話分兩頭然又三河
 國渥美郡奥郡の城主隣尾伊近の判官大江親兵衛並照文婿雪代四郎們が武
 勇の掙は也或討捕り或生物る海賊の頭領海龍王脩羅五郎今絶及查勘太及

伊近の隊も擗捕る小嘍囉まで都て獄舎に敷系し尚支黨と穿毆金と擗向取系か
 了れれば他們の近曾西國四國の舊巢果破れて脱れ來りける海賊也其隊六十餘名外支黨
 ると首伏を介る討捕ると擗捕ると都て五十八名を獲り五六賊の住方知れ是れ
 伊近下知して又緝捕使と処々へ出く隈もさ渉捕らるる苛子崎の波打際より揚られ
 五六個の屍骸ありける件の緝捕使并と檢する身小傷あるも瘻をなす面框九庸を
 咸悪相りければ夥兵の水死の首と斬りて携還る獄舎に衆賊ありて他們が火家
 あらと鞆向をける那水寇鬼柄杓九郎灘渡破船二つこれをたてて皆海龍王が
 下の小嘍囉初那勇少年小敷を惱されて海へ放下され者毎身小傷あり那折品山
 打中まゝるん瘻をい就中泗法至妙の本事ある小頭領でひひ免れ去て漏れり天罰あり
 あらけんとひけりあやとあ海賊六十餘名敷足て逃亡る者るける事分明知れし伊
 近則有司下知して查勘太並生物の衆賊と悉誅戮する脩羅五郎以下の首級と共

苛子崎不鼻を以て且その申明牌海賊餘波をかくる如く刑せられたる今も渡海を志すべしと寫
 きて遠近示あり久土民のころる西海東海船會工們船を這外寄せて眼前
 現るゆゑ傳へるも是よりして俱安堵の思ひを倣て苛子崎不鼻と宿を泊船漸次
 くるいふ當郡の民這濱邊の家を修り店を閉く客店あり酒肆あり經紀見並て這里の
 聚會で敏系昌とせよの者る昔易易さるる領王隣尾氏歎ひてある地方の福也縁故と
 推せとほり那里見の三勇士大江蜜崎姥雪們が逸早く海賊の頭領と成り首斬り成り生拘
 せられしを衆賊越ふ根を断り有徳に那大功武徳と後世に貽せんとて當年五山の學僧の
 渥美の某甲院に流寓て存けし課を剃盜の碑銘と為り最大なる石を勒して苛子崎を
 建ける有徳而百年許歴せる程有一年洪波が打倒されて碑海が落没しより人々惜まぬ
 ると云ふ是後の話且説かの日安房の縮村近に港口の直塚紀三六を復載し既而歸
 帆既具る奥郡の兵船が這回も波上り安らるれば西三日の程中七舊浦邊に於て

その時舟の船宰領們紀三六を伴て奥郡の城内に當家の兵頭錦織機馬の宿所を赴けり
 登時舟の船宰領們紀三六を伴て奥郡の城内に當家の兵頭錦織機馬の宿所を赴けり
 安房より歸着のうと想ひ且大山道節大田小文吾連署の謝書と呈願し語次又り
 中。小可們那里より船をかさんとまぬ折里見殿の沙汰とを宰領並船公高工們の永樂
 錢二十五貫文と賜りていひに報れ紀三六も亦情願ふより更浪速も亦欲して又便船
 きて來ぬとて這地より浪速船が附て那地へ届らんと思ふ事情を詳に解は具告て大
 士們の感謝の口状箇様々々と演説し機馬も孰らち聴て感佩特小淺ら紀三六の權
 且留りて隨御主君判官の件の下りも書え上り伊近主歎ひて里見の君臣徳を以て我ら厚か
 るの本意を解へる件の直塚紀三六もその主を尊ぶ照文を幫助て查勘太と生物くる功あり
 る浪速へ赴く水路の宜く計りしとて町寧に課せし機馬も唯々とるる果て退りて
 紀三六も君命の趣を告知せり宿所を留置り浦邊に泊りて便船を尋るる尼之崎へ赴
 く海艦あり順風ありて詰朝發船せり紀三六もこの回も去向の便を以て錦織の奴

不和ありぬ。比又斯波畠山兩管領。家督争ひありて。各塔を闚じ。初畠山政長。勝元見負。宗全も方人。勝元不和。宗全又畠山義就。荷擔あり。これを立んと。又斯波の争ひ。義政の沙汰。義敏退じ。義廉も立。此程。勝元宗全。御基所。瀬川。幼君。立。欲。勝元。本出川殿。義就。立。左右。程。畠山政長。義就。開戦。都下。起。勝元。亦。勢。政長。帮助。宗全。又。義就。敵。大軍。起。自。母。所。親。入。東。西。中。言。兵。焼。亡。萬。民。四。方。離。散。け。此。兵。乱。初。義。就。政。長。家。督。争。ひ。事。起。遂。勝。元。宗。全。の。争。ひ。端。又。義。視。義。尚。叔。侄。の。争。ひ。有。怨。義。改。約。背。違。義。視。退。義。尚。立。思。食。僻。事。の。斯。波。義。敏。養。嗣。後。実。子。松。王。丸。先。初。の。志。轉。又。勝。元。亦。自。山。の。養。子。後。実。子。出。來。俱。の。家。乱。け。然。將。軍。家。の。三。管。領。皆。是。世。嗣。

よ依れ。矧亦山名宗全伊勢貞親。時の權勢。乘。或。人の家。授。頼。傾。け。僻。心。是。亦。相。似。定。人の世。嗣。大事。昔。北。條。義。時。頼。朝。の。後。絶。近。の。南。北。兩。朝。の。争。ひ。皆。是。世。嗣。の。起。天。下。の。大。乱。做。れ。け。一。歳。不。做。未。と。或。学。究。い。吟。然。心。仁。元。年。は。這。大。乱。起。り。上。七。條。及。以。文。明。五。年。宗。全。勝。元。ら。續。て。世。を。去。り。れ。猶。あ。毎。の。諸。國。を。戦。ひ。休。ま。不。後。十。一。年。と。文。明。九。年。宗。全。勝。元。の。餘。黨。戰。ひ。疲。れ。壁。野。燎。の。あ。つ。く。滅。て。る。如。く。干。戈。を。廢。理。て。萬。民。安。堵。の。思。い。傲。是。も。先。の。文。明。五。年。冬。十。二。月。義。尚。童。年。九。歳。征。夷。將。軍。正。五。位。下。左。中。將。不。做。り。ぬ。政。長。政。元。管。領。義。視。の。美。濃。赴。土。岐。成。頼。馮。在。は。是。より。争。ひ。の。路。絶。て。世。間。静。悄。の。諸。國。の。大。名。皆。叛。逆。又。將。軍。の。命。令。各。方。征。割。据。せ。世。の。戰。國。を。做。り。け。愆。而。文。明。十。一。年。冬。十。一。月。義。尚。十。五。歳。判。始。評。定。始。め。是。も。身。自。為。政。ぬ。義。政。の。東。山。東。求。棠。御。座。と。き。茶。事。不。耽。り。先。

度も懲り多し古器古物を弄び奇石名花を賣り哀北山を金園に擬て茲其銀園と
 造りぬ四十歳をあ費も多し財用之窮乏を武功の諸士に賞する由を
 其の故に刀劍の價を定め開て人々賜りて加恩の地代れり是より義政と東山殿と
 稱するその生涯の過奢放逸かくの如くは尚幸あり義尚將軍少年より賢良の
 才えり馬の家業を承りて文學と書法を習ひて松平は是を以て小槻宿
 祿雅久論語を講せしめて又ト部美保日本紀を講せしめて尚古の思ひ成り
 らざらん僅か十一の秋七月一條の太閤の請ひて樵談治要を撰まて政事の資助
 たるにけり然り折々詩歌の會も與むる又室町花の御所の庭前を大追物を商するも
 其のたはまへるの君治世久しく足利家の中與疑ひるる也世人思ひるれば惜也
 世に生れり將軍のそなたも隨意為政ぬぐもむ且父東山殿の年來奢儀を費
 するも勝元宗余毎の兵乱十一年の及び間も全家武家俱に衰へて京師の京師の像く

其のころは飯屋彦六左衛門の歌
 汝やあるみやの野邊の舞臺雀のなるははて落
 る涙と詠ると然りと想像りぬ有はれ朝廷の御料も年來闕乏を以て榎家槐
 門に言せども困窮至極るぬる也其の時勤王忠義の母も錢財を調ふ必何れの勸
 賞ある所願ある者願ひ言さ勅許疑ひるる也其の風聲も代四郎詳探ゆ浪
 速の浦のからる然而件の事の顛末も親兵衛と照文其の報ると半响許親兵衛を
 うち听て介らぬ事成るべし今管領の威福ある孰も知まやと向代四郎然り政元主
 故管領勝元主の子あるとて亡父の遺福よ第一の權臣願事の人依られ成ると
 る一人みまひ又畠山政長主勝元主の女壻る不応仁以来の兵乱も其那邦助も竟
 管領不補せられ權威政元主及べくも口同席小列る三人も異なるを以て
 ありてとるんと親兵衛點頭然り京師いそんと一千十數兩の白銀と土宜を分ちて
 七八箇の長櫃と十個許の夫役を昇りて其餘の夫役と十個の夥兵と代四郎と俱に船に留りて

尚も三員金の守衛と申却次の早天より親兵衛と照文の長櫃と昇る夫役們を先
 立ちの各伴當を招て京師の赴は管領政元の邸の伺候とて家の家宰をける香西復六が就て
 束意と演且主君義成の呈書と白銀五百兩と土宜幾種致都て目録と共に遞與しければ復
 六異議を受令て退る主君政元不披露の姑且と又出て来て親兵衛の向ひて里見殿の御
 書並に寡君左京兆政元と贈り來され件々隨即披露仕の異日將軍家へ言上と及ぶ
 へ旅亭の退りて又沙汰の等なるべしと命せられ抑旅舎の那里を向を親兵衛の所へ
 安房より水路と求ければ船の歌と浪速の浦の在りし旅亭の所と答復六領てあつた
 咱們案内を索し箇様々々の処に究竟の客店あり調員の貨財を添ければ是れ進退
 のと誨て木牌を遞與を親兵衛の照文と共に保致し演辭去て馳て自山政長の邸に赴
 け又來意を告て東西を進らるると都て始異る有徳而親兵衛の香西復六の指揮に依り
 三條頭不歇店と定めその註朝西三個の伴當と夫役と浪速津の船小還とより代四郎小

告一々代四郎欽びて準備し又其次の早天員獻の韓樞或固と巻絹土宜と居るの夫
 役小昇と陸續とて京師赴く小宰領の雜色あり十個の親兵衛加補管領の木牌あり
 人みる路を譲らぬ是より浪速の浦の歌船を西三個の奴隸と船公堂高の才小残し
 置けり徳而焼聖代四郎の連の路次といそいで下晡小親兵衛の旅宿を求ければ親兵
 衛の照文と俱小端近く出迎へて貢献の韓樞を餘の東西も感貸坐席の上座小昇を積並て
 日夜の小心を困るは徳と又親兵衛代四郎とて香西の宿所へ使遣とて案内依り三條の旅
 宿と定めると浪速の船より東西悉く合を了る趣を告て抄びの心なる小替代の黄白
 一裏と贈りて異日官府の沙汰あらん折のりまでと町寧小瀧の介程の管領左京大夫細
 河政元次の日室町花の御所にお仕て左衛門督自山政長の里見安房守義成の使者大江親兵
 衛に並に登崎十一郎照文と喚做者們が安房より昨日到來とて書割の趣箇様
 箇様と解し且その書とて其侶小將軍義尚公の書とて先

両官領の意見と向ふ政元答旨を奉り義成東隅の藩屏とて敢て千里遠を討つる旨を旨進の
 礼儀を不淳く忠信の致す所願ひ稟を姓為義を奏聞を遂ぐる也。萬言其領は然
 る趣を東山殿稟上て之旨伺ふ。其旨は左衛門督の御意と仰せ長兼退りて東山
 赴て義政公里見の一條箇様々々と申上て其書御覽入れ給義政合笑と亦と兵部
 後財用足と公武俱不如意と料も補助と為る報いさるる例の有無姑問て奏聞
 勿論とて他事多く仰せめり政長兼り罷りかたて義尚公徳々と件の返命と稟を再
 議及ぶる也。即便里見義成奏請の事の顛末を家臣八個の氏と金碗と更ぬ賜
 らんと願ひ申すも具奏聞せられ是より當朝の諸司百寮事の可否と詮議あり或は古
 より氏と改んと請なる者勅許の例ありといふも他們里見公陪臣も係へると議するあり或は又
 他們陪臣といふも義成の外任と定られ必由緒あり兵部等も年々御領闕乏と朝政
 行事廢れとて義勅許を廿六日貢物も退けられ然り了簡申され小とと議を聞白

殿聴ゆて時盛衰あり事小用捨あり八代陪臣もといふも他們が願ひなる事とて主里見義
 成が請稟も將軍奏聞せられ然れば勅許ありといふも氏と陪臣賜ふあり酒義成賜るを
 義成受なりて八代士授る事小條理ありて超級語上の傍議する所と仰諭せあり
 衆議遂一決と主上奏聞せられ義尚將軍勅詔ありて宣上りて成下されけり
 書小いへり。文明十五年八月二十五日宣旨。右肩小細書にて上卿大木原口納言。前治部大輔源義
 實朝臣外侄安房守兼上總介源義成朝臣家臣大江親兵衛仁大塚信乃成孝大山道
 節忠與大阪毛野胤智大川莊介義任大村大角礼儀大飼現八信道大田小文吾藤原
 右八箇勇士依義成朝臣之奉乞宜為金碗氏因賜姓宿祿。藏人右少辨藤原
 朝臣秋豊奉。とありの美秋豊朝臣も室町殿へ執連稟を申けり。徳而又の次日改
 元奉て親兵衛と照文を郎へ召よきて對面あり姓氏の既勅許の御沙汰より明日兩官
 嶼へ召よせり。辰牌時候参上りて見参入りなり。其の餘あるは徳々々不香西復六談



大正七年三月

廿七

大正七年三月



花の御所
仁照文
義尚公
拜見

大正九年三月

大正九年三月

べ。と宣示する。その後又別席で香西復六面談して、宮中の本日夜裳進退の詳を
 指南きて首尾最好とぞ祝ける。倭而二十七日朝風大江親兵衛登崎照文と俱小公
 服と敷正て安房より齎るる。その日晋上の韓樞と居るの夫役の昇り、姥雪代四郎以下の伴
 當と十個の親兵衛宰領の雜色と相俱して花の御所へ赴く。夫役の都て標纏白く龍騰騰
 草と添做する。一樣の半臂で敢漫語せむ齊々と徐ゆ光景田舎兒虫稀とぞ看者
 歩を住めり。倭而親兵衛と照文は花の御所より四脚門より找入りて参上。その日景
 番の青侍遠侍へ案内して各對面ある程。既の時分より將軍義尚公正廳へ参りて儲の
 御見お着る。兩管領政元政長と首めて有司の御前より左右二側並羅列し、近習の奴後小從
 衣の袖と重令て、迥小拜見おされ有司の安房より晋上の目録と披露せしむ。政元則仰を傳
 へて宣上と御教書と親兵衛と渡り賜り當今後土御門天皇並小三宮貢獻の件々の明日参りて獻

と仰らる。折親兵衛が進上臺も禮儀失はれ熟る者如くも當席は有司感心と尚書
 兼少年多小大事の便の違はれれば是覺功者多。思ひあはるるの倭而見たる式果親
 兵衛の晋上件々都て有司相渡りて退りて照文と共宿東山殿詰て又主君晋上の東西進上
 ると前同。且見参の式之餘の室前殿小異るれば言畧て具おせ給。その翌朝親兵衛政元小
 俱せられて参内を階下小朝恩と拜りたる。是小宜加あはる。あはるる面見えたり。既りて拜お説て
 朝貢の件々收斂所へおせ退りて照文と共宿東山殿門漏せとる。参上りて君命と仰て東
 西とちりまると差ちり然而之の歸路の兩管領の邸小赴り恩と謝して歸園の暇と賜りと思ひ編
 蕭牆の下小起りて政元敢其美を饒き。單親兵衛をの柳留めて久くも還さりける。故てあ
 ら甚麼そ。分教あり。雲長在厄豈忘漢。千里獨行虛五關。五道の仇のゆるらるる圍の
 虎と搏り日本まをす。夫。這詩歌の意と知り欲せ。卷と更下。の解分と聴ねが。
 南總里見八代傳第九輯卷二十三終

○曲亭翁編演里見八犬傳第九輯下帙中画工筆畵割刷目次
出像畫工

淨書筆工

彫	工	卷十九廿一	卷二十廿三	卷二十二
柳川重信	横田金	森田	櫻木	藤吉
	川	田	木	吉
	守	某		

南總里見八犬傳

第一輯より第九輯下帙の上まで大九六十二巻年々刊行のち下帙の中五巻との度出版

近世説美少年録

第一輯より三輯まで累刊行してより年々揃出しの第四輯五輯も各五巻八犬傳結局後推して出版遠くより

開卷驚奇俠客傳

第一集より第四集まで二十巻先年既刊行のち第五集四十一回以下八犬傳圍口の後作者必稿と続をへ第五集巻近刻

莊蝶翁再遊外紀

夢想兵備蝴蝶物語の一書前後二編今も世に因て曲亭翁の遺稿として又の編と刊布せま欲む○第一集五巻近刻

著作堂一夕話

この書翁の隨筆といへる世俗不詳一易く成ればなり○度うらも因て通俗を旨とせむ必裨益言を俟下○大本五巻近刻

右曲亭翁新舊著編の目録目録皆本房の藏板もの餘る不詳は下江戶書林 文漢堂藏

玄同放言第三集

初集二輯共六冊先年兩度不賣出今以多く世に仍れ第三集大本三冊近刻九十二冊ゆく全部るべし

玄同公曲亭翁の別号とある板客歳本房購得て藏板の
は別製本已前より格別念入れ速く賣出に如初度より
く仍れ公幸大喜のちも猶又第二集以下公翁の稿本を乞求
わ右小書名とあり一夕話と共刊行可仕は並八犬傳結局
大圍口を明年全部仕は並製本の外に雁皮紙摺り合
本箱入仕はも好む不仕せ賣出に並製本右又本房の
れを追々不仕せ賣出に並製本右又本房の
江戶書林八犬傳板元 文漢堂又伏宣示

○家傳神女湯 婦人の湯とあり一包代百羽
いまは傳人法庵の良薬中あり即効あり
○精製奇應丸 大包代五羽 中包代三羽
○熊胆黒丸 子 小包代五羽 一包代五分
○婦人公使の如葉 小包代五羽 一包代五分
○製菓本家四喜多菓子 小包代五羽 一包代五分
○所元版田中平南園四方堂店高 瀧澤氏

○御茶記 乃山仙女香一包早八文 黒油美玄香一包四十八文 江戶橋南橋馬町三丁目中程坂本氏

天保九年戊戌春正月吉日發行

大阪心齋橋筋博勞町

河内屋長兵衛

河内屋茂兵衛

江戶大傳馬町二丁目

丁子屋平兵衛板

書行

